

6次産業化推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史			
事業主体	県、市町、農林漁業者等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	H24 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営、補助													
補助率	国 定額・1/2、県 1/2・1/3													
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等			[新ふくいの農業基本計画、第3次ふくいの食育・地産地 消推進計画]						
[解決すべき問題・課題] 県産農林水物を使用した新たな6次化商品の販売額は着実に増加している(H26:1,2億円→R4:4,6億円)。今後は、健康志向の高まりや高齢化社会の進展に対応した商品開発・販売を行っていくことが重要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 日本政策金融公庫における消費者動向調査 近年約4割の人が健康を志向する商品を求めている。 国産品かどうか「気にかける」割合は、約7割に上昇した。								
[事業目的] 6次産業化に取り組む農林漁業者等と商工業者、関係機関等が連携して行う機能性表示食品、介護食品等の新しい分野での商品開発・販路開拓を支援する。														
[事業内容] 1 県内の6次産業化推進体制の整備 ○市町6次産業化推進会議等の開催 (実施主体：市町 補助率 定額) ○6次産業化サポートセンターを設置しプランナーを派遣 2 新たな需要に対応した新商品の開発支援 ○機能性表示食品、スマイルケア食の開発支援 ○一次加工品開発の推進 ○新たな需要等に対応した商品開発支援 (実施主体：市町および農林漁業者等 補助率 定額、1/2) ○加工用機械・施設整備の支援 (実施主体：農林漁業者等 補助率 1/3) 3 県外への販路開拓支援 ○県外でのマーケティング・販売促進支援 (実施主体：農林漁業者等 補助率 1/2)														
[受益者] 福井県民						[想定される受益者数] 約75万人								
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)							
市町との連携状況	・少額の事業については市町単独事業で対応。また、ハード整備事業は県と共働で対応するため、市町への間接補助で実施					他県の状況	○新潟県 ・商品開発・販路開拓、施設・設備整備を支援 ・6次産業化はじめる・ひろげる総合支援事業 等 ○富山県 ・商品開発・販路開拓、施設・設備整備を支援 ・6次産業化とやまの魅力発信事業 等 ○石川県 ・商品開発・販路開拓、施設・設備整備を支援 ・いしかわ百万石マルシェ事業(首都圏での販売会) 等							

6次産業化推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	県、市町、農林漁業者等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分 <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	H24 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営、補助												
補助率	国 定額・1/2、県 1/2・1/3												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等						
予算額	12,725	5,107			7,618		農山漁村振興交付金						
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		131,816	23,879	32,023	119,653	12,725	・県6次産業化推進会議や研修会等の開催に係る支援（国庫ソフト）による減 ・新たな需要等に対応した商品開発支援（国庫ソフト）による減 ・地域食材供給施設（直売施設等）整備の支援（国庫ハード）の要望無し等による減 ・機能性表示食品、スマイルケア食開発支援や販売促進支援（県単ソフト）による減						
2月現計予算額の推移		132,803	9,585	20,166	64,342								
決算額の推移		128,752	8,387	18,338									
前年度までの 主な増減理由		○元年度 加工施設の整備支援（国庫ハード）等による増 ○2年度 加工設備の整備支援（国庫ハード）の要望無し等による減 ○3年度 加工施設の整備支援（国庫ハード）等による増 ○4年度 地域食材供給施設（直売施設等）整備の支援（国庫ハード）による増											
[成果指標等の推移]													
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	6次産業化による新商品の販売額（億円）	(3.5)	(3.8)	(4.2)	(4.6)	(5.0)	(5.0)	(10.0)	農林漁業者の所得向上を目指していることから、6次産業化による新商品販売額を指標とする。 新ふくいの農業基本計画 目標 R5：5億円				
	実績	3.5	3.6	4.3	4.6								
活動指標	6次産業化による新商品開発数	(197)	(229)	(254)	(276)	(291)	(291)	(520)	新商品開発数を活動指標とする。 目標 R5：291商品（年間14商品）				
	実績	215	240	262	277								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
・6次産業化による新商品販売額は4.6億円と成果目標を達成できた。 ・6次産業化による新商品開発数は277件と活動指標における目標を達成した。				6次産業化による新商品販売額の増加を目指すために、引き続き、農業者等を支援する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	106,928		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

さかほまれ酒米生産量拡大事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	福井県酒造組合				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R5 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	補助									経過年数		
補助率	1 / 3									1 年		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画、第3次ふくいの食育・地産地消推進計画]					
[解決すべき問題・課題] 流通量が少なく市場に定着した商品とは言えないため、継続したPRが必要						[問題・課題を表す客観的データ] 「さかほまれ」はR2年にR3万本、R3年に6万本、R4年に9万本と、まだ流通量が少ないが、R2年初頭からの新型コロナウイルスの流行によりPRが不十分。						
[事業目的] 福井県酒造組合が実施するPRの支援により、さかほまれ酒米の生産者数の増加およびさかほまれ酒米の消費量の増加を図り、さかほまれ酒米農家の所得向上を目指す。												
[事業内容] ○さかほまれ地酒PR 生産者団体が自ら行うPRへの支援 (実施主体：酒造組合 補助率 1 / 3)												
[受益者] 酒造等						[想定される受益者数] 20事業者						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 さかほまれを使った福井オリジナル酒の魅力発信事業 さかほまれ使用量 (t) R2 → R4 さかほまれ使用酒造場数 32t 103t 17蔵 20蔵				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況		○石川県 大吟醸用酒米の市場デビューによる地酒のブランド価値向上 ・新たな酒米の愛称・ロゴマークの公募 ・イベント実施による新たな酒米のPR ・酒米生産体制の強化				

さかほまれ酒米生産量拡大事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	福井県酒造組合				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		<input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	補助												
補助率	1 / 3												
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	1,089					1,089							
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移							1,089						
2月現計予算額の推移													
決算額の推移													
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	さかほまれ生産量 (t)	(目標) 実績	(30) 32	(60) 68	(90) 103	(120) 108	(140)	(160)	(300)	さかほまれ地酒の醸造量増加に伴い、酒米生産量の増加を見込む。			
活動指標	さかほまれ使用酒造場数 (社)	(目標) 実績	(0) 0	(17) 17	(19) 19	(20) 20	(21)	(21)	(25)				市場でのさかほまれ地酒の需要向上に伴いさかほまれ酒米を活用した酒蔵の増加を見込む。
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

米粉普及拡大推進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、補助											
補助率	定額											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画、第3次ふくいの食育・地産地消推進計画]					
[解決すべき問題・課題] 主食用米の生産量は、県農業再生協議会の生産数量の目安により割当られており、農家は増産できない。 収益増加のためには、加工用米への転作に取り組む必要があるため、米粉の需要の増加を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 令和4年度主食用米生産目安減少：2,762t減少 令和4年度生産面積減少：532 ha減少						
[事業目的] 現在、低アレルギーで健康によい食品として米粉に注目が集まっている。米粉加工用米の品種選定や米粉特性指標の作成を行い、農家および食品加工業者の課題を取り除き、米粉普及拡大に取り組むことで、農家の加工用米の増産とそれに伴う所得向上に貢献する。												
[事業内容] 1 米粉を活用した商品開発の支援 ・米粉をテーマとした新規ビジネス創出の支援 事業者によるプロジェクト実施・米粉商品開発にかかる経費への補助（実施主体：農林漁業者等、補助率：定額） 2 米粉の需要・用途に適した米粉特性の把握のための調査 食品加工業者へのアンケート調査等米粉特性指標作成のための調査を実施												
[受益者] 農業者等						[想定される受益者数] 約75万人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 6次産業化推進事業 (実績) 米粉商品開発数：1商品					関連事業の有無・ 役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況		新潟県産米粉及び米粉製品プロモーション事業 山形県米粉利用助成事業				

米粉普及拡大推進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史			
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	直営、補助													
補助率	定額													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	13,093	10,000			3,093	地域食品産業連携プロジェクト推進事業補助金								
[予算額の推移等] (単位：千円)														
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移						13,093								
2月現計予算額の推移														
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	米粉新商品開発数 (個) (目標) 実績					(2)	(4)	(6)	米粉商品開発の補助および米粉特性指標の作成により、米粉の新商品開発数の増加を見込む。					
活動指標	新規米粉用加工米生産者増加 (目標) 実績					-	(3)	(5)	米粉の需要増加および超多収性品種の開発により、米粉用加工米生産者の増加を見込む。					
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価						
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

都市農村交流推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	ふくい農林水産支援センター				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画、北陸新幹線開業対策加速化プラン (仮称)]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線の開業や大型交流拠点施設の整備などによる観光での来県者の増加が見込まれるが、農村部では人口減少や高齢化の進展に伴い、受入体制づくりが課題となっている。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井県の人口動向と将来見通し (令和2年改訂版) 福井県人口 : 82.9万人 (2000年) → 78.7万人 (2015年) → 64.7万人 (2040年) 福井県高齢化率 (65歳以上) : 25% (2010年) → 37.2% (2040年)						
[事業目的] 「農泊」による交流拡大を図るため、「ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク」と都市農村交流員が核となり、福井県の農泊に関する情報を県内外に発信し、先進事例研修の開催など受入体制の整備に取り組む。												
[事業内容] ①情報発信の強化 ・都市農村交流員の設置・活動費等 ②受入体制の整備 ・受入農家等に対する研修会、ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク事務局の設置および運営等												
[受益者] 農産物直売所、農家レストラン、農家民宿等						[想定される受益者数] 150事業者						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 農のある生活応援実践事業 (実績) ・業務委託による情報発信、研修会開催、インターンの受入調整 ・農家民宿開業 29軒 (H24~H26)				関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 里山里海湖ビジネス実践力強化事業 (役割分担) 里山里海湖ビジネス実践力強化事業 : 里山里海湖ビジネス実践者の支援				
市町との連携状況		ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワークに各市町が参加しており、情報を共有している				他県の状況		富山県 グリーンツーリズムに関する普及啓発、人材育成、情報収集・提供等をNPO法人へ委託 石川県 グリーンツーリズムに関するパンフレットおよびガイドマップの作成・配布を公益社団法人へ委託				

都市農村交流推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	ふくい農林水産支援センター				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 9 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R5 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	13,844			(繰入) 13,844		中山間地域土地改良施設等保全基金 13,844千円						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	14,807	13,784	13,788	13,896	13,844	共済費率の変更による減						
2月現計予算額の推移	14,807	13,784	13,788	13,896								
決算額の推移	14,712	13,784	13,788									
前年度までの 主な増減理由	H28：外部人材を活用した里山里海湖ビジネスモデルコースへの指導・助言を実施 H29：前年度の外部講師の指導・助言をもとに職員が対応 H30：エコグリーンツーリズムにかかるパンフレット作成部数の減 R1：農家民宿開業支援件数の減 R2：農家民宿開業支援の廃止およびふくいエコ・グリーンツーリズムにかかるパンフレット作成部数の減 R3：共済費率の変更による増 R4：通勤手当の増											
[成果指標等の推移]												
区分	平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	農家民宿開業申請件数（～R1） 農家民宿新規開業件数（R2～）	(目標) 実績	(3) 4	(3) 0	(5) 12	(5) 5	(5) 7	(5) (5)				
	活動指標	農家等を対象とした受入研修会開催回数	(目標) 実績	(2) 2	(2) 2	(2) 2	(2) 3	(2) 2				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
開業予定者へのサポートを行ったことにより、成果指標は達成した 研修会を開催したことから活動指標は達成した 都市農村交流員（2名）の設置および里山里海湖体験講座による都市農村交流への参加意識の啓発等								□ 拡充	■ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								□ 継続	□ 休止	□ 完了	52	
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

里山里海湖ビジネス実践力強化事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度 R4 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度) R8 年度	
事業実施方法	直営										
補助率	—										
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画、FIRST～北陸新幹線開業プラン～]				
[解決すべき問題・課題] 農山漁村では、食材や景観等や人々の暮らし方など魅力的な地域資源が存在するが、十分な活用がされていない。そこで、そのような魅力ある資源を活用した農家民宿や農家レストランによる農家所得向上のため、実践者の掘起しや実践者の抱える課題解決の支援が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 魅力度 全国順位37位 (2022年)					
[事業目的] 里山里海湖ビジネス研修を強化し、ビジネス実践者の掘り起こしを行うとともに、農村資源を活用した地域づくりにおける実践者の課題を解決することで農家所得の向上を図る。											
[事業内容] ○里山里海湖ビジネス実践者の掘起し ・農家民宿コース：農家民宿開業や、宿泊者の獲得に向けた研修の実施 【対象者】 開業希望者 ・農家レストランコース：農家レストランの開業や、農家レストランならではの料理の提供法習得に向けた研修の実施 【対象者】 開業希望者 ・里山資源活用サロンコース：地域の農家民宿や農家レストラン等における体験交流の軸となる人材を育成する研修の実施 【対象者】 農家民宿等の協力希望者 ○里山里海湖ビジネス実践者の課題解決を支援 課題解決コース：ビジネスの実践者の課題解決に向けて、専門家の派遣を行う 【対象者】 ビジネス実践者											
[受益者] 農産物直売所、農家レストラン、農家民宿等						[想定される受益者数] 150事業者					
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 新たな農業ビジネス創出事業 (実績) 里山里海湖ビジネスを担う人材育成のための研修を実施し、の延べ91人が受講し、うち16人が新規開業した。					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			
市町との連携状況	ビジネス実践者の課題解決方針を市町に報告し、市町の地域づくり方針とのすり合わせを実施					他県の状況		【石川県】 ○いしかわスローツーリズムビジネスモデル見学会 農家民宿やレストラン等の開業・経営に関心のある方を対象に見学ツアーを開催し、地域の優れた食材や景観を観光に活用する「スローツーリズム」を推進 (令和4年度) ○農家民宿開業講座 農家民宿開業の第一歩として「宿のコンセプト設定」をテーマに開催 (令和4年度)			

里山里海湖ビジネス実践力強化事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R4 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等					
予算額	4,687		2,500		855	1,332	国庫名：農山漁村振興交付金 ふるさと水と土保全基金事業（565千円） 諸収入（諸収入）受講料（290千円）					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移			11,650	12,519	7,738	5,049	4,687	研修事業カリキュラムの講師変更による減				
2月現計予算額の推移			8,281	7,965	6,870	5,049						
決算額の推移			6,117	6,546	6,041							
前年度までの 主な増減理由		R2：里山資源活用サロンコースの新設 R4：課題解決コース派遣回数および支援体制の見直し 農家民宿コース、農家レストランコースの講座実施回数の見直し										
[成果指標等の推移]												
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	農家レストラン、農家民宿 の開業件数	(目標)	(223)	(240)	(245)	(256)	(267)	(277)	(330)	農家レストラン76軒（2040年）、農家民宿254軒（2026年） 計330件 年間開業件数：農家レストラン（3件/年）、農家民宿（8件/年） 計11件		
		実績	223	240	245	259						
活動指標	研修事業の参加人数と課題 解決コース実施事業者数	(目標)	(50)	(90)	(85)	(80)	(80)	-	-	農家レストランコース10名、農家民宿コース10名、課題解決コース20 名、里山資源活用サロンコース40名 計80名		
		実績	54	180	196	218						
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
実践研修を開催したことから成果指標、活動指標は達成した。 農家レストランコース 10名 農家民宿コース 5名 課題解決コース 15名 里山資源活用サロンコース 188名								<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	362	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

農遊促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県、農遊コンシェルジュ				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営、補助											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]					
[解決すべき問題・課題] 北陸新幹線福井・敦賀開業を契機として交流人口の拡大が見込まれるが、県内農村部ではまだ人を呼び込むための基盤整備や情報発信が弱い。						[問題・課題を表す客観的データ] じゃらん宿泊旅行調査2021～福井県～ 宿泊旅行の目的「各種体験(手作り、果物狩りなど)」1.2% 旅行後の来訪者の項目別評価「地元の人のホスピタリティを感じた」20%(全国45位)						
[事業目的] 県内農村での交流人口の増加を図るため、大型直売所などの拠点施設を中心に観光農園・農家レストラン・農家民宿等の農村を体感するコンテンツをつなげ農村を満喫する「農遊地域」づくりを進める。												
[事業内容] 1 農遊コンシェルジュの育成 旅行者へ農村の情報を魅力的に伝えられる農遊コンシェルジュのスキルアップを支援 2 農遊の情報発信 ○観光地から直売所等へ観光客の誘導を図るため、モバイルスタンプラリーを実施 3 イベントや新商品開発を支援 ○大学生や農遊コンシェルジュが中心となり、農遊の目玉となるようなイベントの実施や新商品開発を支援 実施主体：農産物直売所等 補助額：補助上限800千円 補助率：1/3												
[受益者] 農産物直売所、農家レストラン、農家民宿等						[想定される受益者数] 150事業者						
前事業の有無・実績		■ 無 □ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		□ 無 ■ 有 事業名 都市農村交流推進事業 (役割分担) 農遊体験を望む都市部住民と農遊コンシェルジュとのマッチングは都市農村交流員が担うこととする。				
市町との連携状況		【農遊コンシェルジュ育成】 ・コンシェルジュ候補の選定と育成講座への参加誘導 ・都市農村交流員からの最新情報をコンシェルジュ認定者に伝える役割を担う。				他県の状況		○富山県 ・県が事業主体となり田舎暮らし体験メニューを実施 ・「帰農塾」等 ○石川県 ・地域資源を活用したイベント実施や滞在メニュー開発を支援 ・里山振興ファンド等				

農遊促進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県、農遊コンシェルジュ				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営、補助					□ 法定受託事務						
補助率	1/3											
区分	事業費	国庫	起債	その他		一般財源		国庫、その他財源の名称等				
予算額	10,620	4,064		繰入金	3,556	3,000	(国庫) 農山漁村振興交付金 1,064千円 地方創生推進交付金 3,000千円 (繰入金) 中山間地域土地改良施設等保全基金 3,556千円					
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移				13,751	17,863	10,620	情報発信事業の縮小による減 農遊コンシェルジュ認定の終了による減					
2月現計予算額の推移				10,739	10,596							
決算額の推移				9,952								
前年度までの 主な増減理由		R4：特設ホームページ整備による増 イベントや新商品開発を支援の要望増による増										
[成果指標等の推移]												
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	交流人口の拡大(万人) (目標) 実績	91	52	(150) 113	(160) (未発表)	(170)	(170)	(170)	H29 85万人 → R5 170万人			
活動指標	ソフト補助件数(県) (目標) 実績			(6) 5	(9) 7	(9)	(9)	(9)	農遊コンシェルジュが企画立案して行うイベント実施や新商品開発に対する支援			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
成果指標について、R4年度は未発表である。R3ではコロナ禍より回復しているが、目標の達成には至っていない。 ・R4年度農遊コンシェルジュの認定 64名 ・農遊コンシェルジュが行う目玉となる新商品開発やイベントへの補助件数 7件				コンシェルジュは計178名となり、今後は、認定したコンシェルジュのスキルアップを支援していく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	7,243	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

中山間総合対策支援事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	県、市町、営農集団等				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R4 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度	
事業実施方法	県営、補助									経過年数			2 年
補助率	定額、県 1/3、1/2									2 年			
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]						
[解決すべき問題・課題] 中山間地の農地は法面が急傾斜のため、維持管理作業は危険で負担が大きい。また、これまで集落営農や大規模農業者を担い手としてきたが、中山間地域の農地を守るには十分な担い手数が確保できていない。						[問題・課題を表す客観的データ] ・5年後の農業の担い手が確保された中山間集落数 (アンケート結果) R2 586集落/1,013集落 ・中山間地域の担い手の声 (アンケート結果) 草刈り等の作業応援・省力化支援要望56%							
[事業目的] 中山間地域等の農村に人が住み続けるために、中山間地域の多様な担い手の育成および営農活動を支援する。													
[事業内容] ① 中山間地域の新規担い手支援 補助対象者：営農集団等 補助率：1/3 (条件不利地1/2) ② ICT等活用による中山間地域営農の超省力化推進 補助対象者：営農集団等 補助率：1/2 ③ 農業サポートセンターを核とした中山間の営農を継続させる体制づくり (1) 条件不利地の農作業受委託促進 補助対象者：農業者等 補助率：定額 (2) 農業サポートセンターの活動支援 補助対象者：農業サポートセンター 補助率：1/2 (3) 農業サポートセンターの機能強化に係る人件費支援 補助対象者：市町 補助率：定額 (4) 農業ねこの手クラブの会員募集													
[受益者] 中山間地域の農業者						[想定される受益者数] 中山間地域の農家 10千戸							
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 中山間集落農業支援事業、中山間営農継続支援事業 (実績) ・中山間地域の集落合意形成を促進し、小規模な水田農業機械・園芸施設等の整備を支援 ・除草ロボやドローン等の導入を支援 ・中山間地域における農作業支援活動を支援				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況		・各市町が農業サポートセンターを運営し、中山間地域の営農相談ワンストップ窓口として機能させる。				他県の状況		岐阜県 ①中山間地域等担い手育成支援事業費補助金 機械・施設整備等、担い手育成の取組みを総合的に支援 事業主体：市町村 補助率：1/2、1/3、定額 ②集落営農後継者育成等推進事業費補助金 集落営農の設立、経営強化、後継者育成の取組を支援 事業主体：市町村、地域農業再生協議会、農業者で組織する団体等 補助率：定額 (上限200千円)					

中山間総合対策支援事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史			
事業主体	県、市町、営農集団等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R4 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	県営、補助											経過年数		
補助率	定額、県 1/3、1/2											2 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	176,919	39,350			137,569	地方創生推進交付金(28,000千円) 中山間地農業ルネッサンス(11,350千円)								
[予算額の推移等] (単位：千円)														
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移					170,965	176,919	条件不利地の農作業受委託促進要望の増による増 ねこの手クラブ会員募集にかかるPR費用の増							
2月現計予算額の推移					161,040									
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	農業の後継者が確保された 集落数 (目標) 実績				(633) 637	(675)	(730)	(800)	R3 591集落/1,030集落 → R8 800集落/1,030集落					
活動指標	集落戦略作成数 (目標) 実績				(633) 637	(675)	(730)	(800)	R3 591件 → R8 800件					
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価						
成果指標、活動指標ともに達成した 農業の後継者が確保された集落数 46集落 集落戦略作成数 46集落				「農業ねこの手クラブ」を市町の農業支援センター内に新たに設置し、「農業ねこの手クラブ事業支援」を実施し、会員募集に係る支援などを行う				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

ふくいワイン事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内将史	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H30 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営、補助											
補助率	1/3、1/10											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアツ!]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]					
[解決すべき問題・課題] 平成30年度からふくいワインカレッジを開講しているが、ワイン生産を始めた受講生はまだ2件しかない。						[問題・課題を表す客観的データ] ・ワイナリー開業者数 1人 ・ワインぶどう栽培者数 11人 ・委託醸造者数 1人 (R4見込)						
[事業目的] 中山間地域等の活性化や振興を目的に、県産ワインの生産者を育成するとともに、委託醸造およびワイナリー整備にかかる費用を支援することで、県産ワインの生産拡大を図る。												
[事業内容] 1 研修事業 ①実践コース【対象者】福井でワイン生産を希望する者 ・ワインブドウ栽培研修：研修生自らが専用の圃場を管理する実践的な技術研修 ・ワイン醸造研修：県内のワイナリーで自らのタンクを管理し、実践的な醸造経験を積む研修 ・座学研修：ワインブドウ栽培やワイン醸造の第一人者を講師に招き、栽培・醸造・販売の知識や技術を習得する研修 ②教養コース【対象者】県内在住者でワインの知識を深めたい者 ・実践コースの座学研修の一部を公開講座として実施 2 ふくいワイン生産拡大事業 ①ぶどうの収量が少ない植付3年目、4年目の委託醸造費の補助 補助対象：ワインカレッジ修了生 補助率：1/3 補助内容：ふくいワインの委託醸造 ②ワイナリー整備にかかる費用の補助 補助対象：ワインカレッジ修了生、ワイン生産において一定の技能を有する者 補助率：1/10 補助内容：ふくいワイン生産のためのワイナリー整備												
[受益者] ふくいワインカレッジ研修生						[想定される受益者数] 毎年30人程度						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 ふくいワイン振興事業 (実績) ・醸造の担い手を育成するための研修プログラムの策定				関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 新規就農者支援事業、園芸経営者誘致事業 (役割分担) ・研修生の誘致や研修終了後の就農支援の実施				
市町との連携状況		・ブドウ栽培やワイナリー開業希望者に対して、農地や物件等を斡旋				他県の状況		長野県：「ワイン生産アカデミー」 実施主体 県 研修期間 4か月(全7回) 受講料 5,000円 募集人数 30名 塩尻市：「塩尻ワイン大学」 実施主体 市 研修期間 4年間 受講料 30,000円/年 募集人数 20名 山梨県：「やまなし醸造用ブドウ栽培セミナー」 実施主体 県 研修期間 9か月(全8回) 受講料 無料 募集人数 20名				

ふくいワイン事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内将史					
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	H30 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度		
事業実施方法	直営、補助					□ 法定受託事務			■ 補助金						□ その他	
補助率	1/3、1/10															
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	5,658		4,208		諸収入 450		1,000	中山間地農業ルネッサンス推進事業交付金 (諸収入) 研修受講料								
[予算額の推移等]												(単位：千円)				
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移			8,675	5,911	5,589	6,499	5,658	ワインカレッジ研修見直しによる減								
2月現計予算額の推移			8,675	5,911	5,589	11,888										
決算額の推移			8,331	5,277	4,234											
前年度までの 主な増減理由		令和元年度 醸造実習受け入れ先の変更による減 令和2年度 醸造機器導入の完了による減 令和3年度 栽培機械導入の完了による減 令和4年度 ワインカレッジ修了生に対する委託醸造にかかる費用の補助制度新設による増														
[成果指標等の推移]																
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	新規県産ワイン醸造本数	(目標)	(800)	(800)	(800)	(2,800)	(9,500)	(22,700)	(79,000)	修了生および受講生が生産したワインの本数						
		実績	188	559	374	1,847										
活動指標	ワインカレッジ研修受講者	(目標)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	-	-	R4～ (H30～R3) 実践コース20名(1年生10名、2年生10名) + 教養コース10名 ワイナリー開業コース20名(1年生10名、2年生10名) ワインブドウ栽培コース10名						
		実績	16	20	28	14										
[事業の評価]																
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価								
・新規県産ワイン醸造本数 1,847本 (修了生(ピアファーム)1,000本、受講生847本) 黒とう病の発生により、修了生の醸造本数が予定の半分となった。 ・ワインカレッジ研修受講者 14人 中退する研修生がいたため、目標受講者数を達成することができなかった。 ・ワイナリーの建設数 1軒				修了生によるワイナリー整備があったことから、ワイナリー整備費用補助制度の創設				■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額					
								□ 継続	□ 休止	□ 完了						
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他						

次世代へつなぐ伝統やさい支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	営農集団等				事務 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業 区 分	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助											
補助率	1/2											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]					
[解決すべき問題・課題] 福井百歳やさいの生産者は、平成30年に200人を割り、近年は150人に減少している。 また、販売額は増加しているものの、近年は伸び悩んでいる状況である。						[問題・課題を表す客観的データ] 福井百歳やさい17品目の生産者の推移 H29 211人、H30 190人、R1 173人、R2 159人、R3 159人 販売額の推移 H29 36,500千円、H30 42,500千円、R1 42,600千円、R2 42,700千円、R3 44,000千円						
[事業目的] 本県で100年以上前から栽培される「福井百歳やさい」の県内流通を促進し、販売額を増加させるため、生産者団体の活動に対する支援を行う。												
[事業内容] 県内での消費拡大のための販売活動等への支援 実施主体：営農集団等 補助率：1/2 補助内容：新たな栽培方法の実践、新たな貯蔵方法の実践												
[受益者] 「福井百歳やさい」生産者						[想定される受益者数] 157名(17品目生産者)						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 福井百歳やさい応援事業 (実績) 平成29年から令和3年で販売額を7,500千円増					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 伝統地場農産物等原種供給事業 (役割分担) 伝統野菜の種子の保存・供給					
市町との連携状況	・小中学校の児童生徒を対象に「百歳やさい」を使用した学校給食を提供し、食育の題材として活用 ・市町のイベント等で普及活動を実施					他県の状況						

次世代へつなぐ伝統やさい支援事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史			
事業主体	営農集団等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助													
補助率	1/2													
区分	事業費		国庫	起債	その他		一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	1,479						1,479							
[予算額の推移等]												(単位：千円)		
区 分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移					1,479	1,479	1,479							
2月現計予算額の推移					1,479	1,479								
決算額の推移					666									
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区 分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	販売額の増加(百万円)	(目標) 実績			(44) 44	(45) 45	(47)	(47)	(47)	対象17品目の販売額合計を令和2年度から令和5年度までに10%アップ 令和2年度販売額：42,700千円×1.1≒47,000千円(増加額：4,300千円)				
活動指標	支援団体数	(目標) 実績			(17) 6	(17) 9	(17)	(17)	(17)	福井百歳やさいを栽培する営農集団等に対する支援				
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価						
対象17品目の販売額は、44,950千円に達した。 支援団体は、目標の53%(9団体)であった。 活動目標を達成できなかった理由としては、新たな栽培・保存方法の検討に時間を要し、時期を逃してしまった。				ふくい百歳やさいの販売額の増加を目指すために、引き続き、栽培方法と保存の視点から、栽培者を支援する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

鳥獣害のない里づくり推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	県、市町、各市町鳥獣害対策協議会等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	H14 年度 経過年数 22 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営、補助等												
補助率	国2/3・1/2・5.5/10・定額、県1/2・1/3												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]						
[解決すべき問題・課題] 人口減少や少子高齢化の進展により、農地や山林等の継続的な管理が不十分となっており、鳥獣の生息域が拡大し農作物被害が発生している。R1までイノシシが被害の約7割で推移してきたが、R2にはシカの被害がイノシシと同等まで急増、R3はシカの被害がイノシシを超えた。このためシカ対策の強化が急務となっている。						[問題・課題を表す客観的データ] 総被害面積 (ha) 102ha 被害面積 R2 R3 イノシシ 52.4ha 43.7ha 前年比 83.4% シカ 51.3ha 52.0ha 前年比101.4%							
[事業目的] 有害鳥獣による被害を軽減するため、集落を取り獣のえさ場としない集落ぐるみの被害対策を基本として、金網柵やネット柵等の整備を支援する被害防除を推進するとともに、市町が行う有害鳥獣捕獲に対する経費への支援や県が事業主体となり鳥獣の捕獲を行う広域捕獲事業などの個体数調整、県・市町担当職員のレベルアップや集落リーダーの育成を図る体制強化など、総合的な鳥獣害対策を実施し、誰もが安心して農業を営むことのできる里づくりを推進する。													
[事業内容] ①鳥獣被害防止総合対策交付金(実施主体:各市町鳥獣害対策協議会等) ②ネット柵整備、③電気柵整備(実施主体:各市町鳥獣害対策協議会)④小規模金網柵の整備支援(実施主体:各市町鳥獣害対策協議会) ⑤侵入防止柵(金網柵、ネット柵、電気柵)の更新に対する支援(実施主体:各市町鳥獣害対策協議会) ⑥電気柵遠隔監視通報システムの運営 ⑦捕獲檻整備(実施主体:市町) ⑧有害捕獲経費の助成(実施主体:市町) ⑨指定管理鳥獣捕獲等事業の推進(イノシシ、シカ) ⑩シカ捕獲の強化(新たな捕獲技術の普及拡大) ⑪広域捕獲事業の推進(イノシシ、シカ) ⑫サル捕獲対策(悪質なサルの選択的捕獲活動)への支援(実施主体:市町等) ⑬第二種特定鳥獣管理計画、⑭特定外来生物防除実施計画の推進にかかる研修会や調査の実施 ⑮獣肉の利活用の推進 ⑯猟銃所持初期経費の補助 ⑰集落リーダー育成研修の開催 ⑱集落間の合意形成による鳥獣害対策実践への支援 ⑲サル対策体制強化支援事業													
[受益者] 農業者等						[想定される受益者数] 約75万人							
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 農作物鳥獣害防止対策推進事業 (実績) ・電気柵の整備支援 ・有害獣捕獲の経費支援 ・捕獲檻の整備支援 ・捕獲者の確保、育成				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況		・各市町と連携して、鳥獣被害発生集落に対する現地指導等を行い、集落ぐるみの対策を推進				他県の状況		(滋賀県) ・鳥獣被害防止総合対策交付金事業 ・指定管理鳥獣捕獲等事業(ニホンジカ) (岐阜県) ・鳥獣被害防止総合対策交付金事業 ・指定管理鳥獣捕獲等事業(イノシシ、ニホンジカ)					

鳥獣害のない里づくり推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県、市町、各市町鳥獣害対策協議会等				事務区分	■ 自治事務		■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度 H14 年度 経過年数 22 年	事業終了 予定年度 (見直し年度) R5 年度	R5 年度	
事業実施方法	直営、補助等					□ 法定受託事務						
補助率	国2/3・1/2・5.5/10・定額、県1/2・1/3											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	540,292	412,103		(繰入) 3,885	124,304	鳥獣被害防止総合対策交付金(336,909千円)、電源立地地域対策交付金(40,112千円)、指定管理鳥獣捕獲等事業交付金(35,082千円)、中山間地域土地改良施設等保全基金(3,885千円)						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	526,733	588,948	598,639	580,033	540,292	金網柵の整備延長、有害獣捕獲頭数による減						
2月現計予算額の推移	399,236	461,446	507,034	473,431								
決算額の推移	314,273	434,651	401,938									
前年度までの主な増減理由	平成31年度：金網柵の整備延長による増 令和2年度：指定管理鳥獣捕獲等事業の実施、集落間の合意形成による鳥獣害対策実践事業の実施、有害獣捕獲補助金の定額上乘せ(イノシシ)による増 令和3年度：金網柵の整備延長による増 令和4年度：金網柵の整備延長による減											
[成果指標等の推移]												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標)	(144)	(135)	(132)	(100)	(95)	(90)	(80)	最終目標とする総被害面積80ha(R8年度(現管理計画最終年度))100ha(R4年度目標)-80ha(R8年度目標)=20ha → R5年度以降5ha/年の減少			
	総被害面積(ha)	実績	139	123	102	集計中						
活動指標	(目標)	(21,000)	(23,600)	(21,020)	(23,940)	(21,855)	-	-	ニホンジカ：第二種特定鳥獣管理計画(11,000頭) その他鳥獣：過去5年間の実績を基に目標を設定(10,155頭) 指定管理鳥獣捕獲等事業(R2~)(300頭)、広域捕獲事業(R4~)(400頭)			
	駆除事業捕獲頭数	実績	22,087	20,534	17,379	集計中	-	-				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
(R4年度実績) ・R4総被害面積は集計中 ・侵入防止柵の整備支援：46.0km (金網37.2km、電気7.4km、ネット1.4km) (R3年度実績) ・総被害面積は102haにまで減少し、R3目標を達成した。イノシシの被害面積が前年比83.4%(52.4ha)だったのに対してシカは101.4%(51.3ha)であり、引き続きシカ捕獲対策の強化が必要。				シカの捕獲強化が急務となっている。 シカ捕獲研修で新たな捕獲技術の普及拡大を図るほか、有害獣捕獲補助金では主とする対象獣をイノシシからシカに変更する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	39,741	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

畜産獣医師確保対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	中央畜産会、県畜産協会、県				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R4 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R18 年度
事業実施方法	補助、直営											
補助率	1/2											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る(産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[福井県獣医療計画、福井県長期ビジョン]					
[解決すべき問題・課題] 毎年、獣医系大学の卒業生が全国で約1,070名いる中で、公務員への就職を志望する学生は2割程度。そのうち、福井県を志望する学生はごくわずかで、募集人数に対する採用者数は毎年、定員割れの状態。自己都合での早期退職者もいるため、獣医師の数は年々減少し、年齢構成に偏りがあり、獣医療の技術継承が困難になっている。						[問題・課題を表す客観的データ] ・農林水産部獣医師正規職員数の減少：H28 26名、R2 20名 ・獣医師の年齢構成に偏りがある(令和3年4月現在)：25～29歳2名、30～34歳4名、35～39歳0名、40～44歳2名、45～49歳6名、50～54歳5名、55～59歳1名						
[事業目的] 将来、福井県の畜産獣医師として一定期間勤務することを条件に、全額返還免除型の修学資金を学生に対して給付することで、獣医師職員の必要定数を確保することを目指す。												
[事業内容] 1. 高校生向け修学金給付 ・内 容：大学進学にかかる費用(入学金、1年次前期授業料、実習費等)の給付(最大1,750千円) ・募集人数：1名 ・補助率：国1/2、県1/2 2. 獣医学生向け修学金給付(4～6年生) ・内 容：私立大学生月額180千円以内、国公立大学生月額100千円以内 ・募集人数：2名 ・補助率：国1/2、県1/2 3. 修学金制度PR ・内 容：事業内容広報パンフレット等作成 ・事業費：20千円												
[受益者] 獣医系大学に入学する高校生および在学する獣医学生						[想定される受益者数]			高校生1名、獣医学生2名			
前事業の有無・実績		■ 無 □ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担			■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)			
市町との連携状況						他県の状況			○高校生向け修学金給付(全国10道県) 対 象：獣医学系大学に進学する高校3年生 補助率：国1/2、県1/2 ○獣医学生向け修学金給付(全国24県) 対 象：1～6年生(各県により募集学年が異なる) 補助率：国1/2、県1/2			

畜産獣医師確保対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	中央畜産会、県畜産協会、県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R4 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R18 年度
事業実施方法	補助、直営					□ 法定受託事務						
補助率	1/2											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	5,215				5,215							
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移				3,055	5,215	令和4年度大学生認定予定者分1名（私立大学18万円/月×12ヶ月=2,160千円×1/2=1,080千円） 令和4年度高校生認定者分1名（私立大学18万円/月×12ヶ月=2,160千円×1/2=1,080千円）						
2月現計予算額の推移				3,055								
決算額の推移												
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	農林水産部獣医師正規職員数（名）			(20)	(21)	(26)	(28)	新卒獣医師を定期的に確保し、最終的に正規職員獣医師を28名以上確保する。				
	実績			20								
活動指標	高校生向け修学資金給付（事業活用）			(1)	(1)	(1)	(1)	県内の高校から高校生向け修学資金給付の利用者を毎年1名ずつ確保し、定期的に新卒獣医師を確保する。				
		実績			1							
	獣医学生向け修学金給付（事業活用）			(2)	(2)	(2)	(1)	高校生向け修学資金給付の利用者が入庁するまでの間、獣医学生向け修学給付の利用者を毎年2名程度確保し、定期的に新卒獣医師を確保する。				
		実績			0							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
高校生向け修学資金認定 1名 制度導入1年目であることおよび新型コロナの影響により対面での企業説明会の減少等により、全国の獣医学生に対して福井県の制度の十分な周知が行えなかったため目標達成が出来なかった。				引き続き、畜産獣医師の確保に向けて各修学資金の利用者を募集していく。 また、積極的な大学訪問等を通じ、全国の獣医学生に対する当制度の広報活動に力を入れる。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

ふくい農林水産グルメイベント開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	福井県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等	[新ふくいの農業基本計画]						
[解決すべき問題・課題] 新幹線の開業により増加が見込まれる来県者に福井県産ブランド畜産物を認識させ、購入や飲食による消費につなげることは、畜産物の需要の増加につながる。そのために、福井県産ブランド畜産物の知名度を上げる必要がある。また、流通が途絶えていたふくいポークの復活を県内へ広く周知する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 若狭牛 生産額 7.1 億円 ふくいポーク 3ヶ年出荷0頭 生産額 0円 福地鶏 生産額 0.39 億円						
[事業目的] 県産ブランド畜産物PRイベントの若狭牛、ふくいポーク、福地鶏を新幹線開業に向けて県内知名度を向上する。新幹線開業関連イベント等に参加し、来県者や県外に対するPRを行い、畜産物の需要を増加させ、加工品も含めた生産額の増加につなげる。												
[事業内容] 【新幹線開業に向け、県産畜産ブランドの認知度を向上させることより生産額の増加を目指す。開業後は来県者に対する認知度向上を目指す。】 1. 福井県産ブランド畜産物PRイベント (まるごとフェスタと同時開催) 会場：県庁周辺 ・ 福井県産畜産物である若狭牛・ふくいポーク・福地鶏の3種を併せて周知することにより購買意欲を高める ・ 令和5年度については、ふくいポークの再販売を大きく取り上げ、待ち望んでいた県民への周知を図る 2. 県産畜産ブランド販促品作成 3. 市町、新幹線開業課のイベントへの参加によるPR												
[受益者] 畜産農家、県民						[想定される受益者数]			県内畜産農家75戸、福井県民約75万人			
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担			■ 無 □ 有 (役割分担)			
市町との連携状況	新幹線イベント等へのパンフレット、チラシの設置					他県の状況			石川県 能登牛販売促進PR事業 予算額 14,240千円 ・消費拡大キャンペーン事業 県内イベントを通じて販売促進 (7,000千円) ・首都圏販路開拓事業 銀座アンテナショップでの試食会など (7,000千円) ・パンフレット等 (240千円)			

ふくい農林水産グルメイベント開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	福井県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 区分	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務							
補助率	—												
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等					
予算額	7,264					7,264							
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移							7,264						
2月現計予算額の推移													
決算額の推移													
[成果指標等の推移]													
区 分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	若狭牛生産額（億円）	(目標) 実績			7.1	集計中	(7.1)	(7.5)	(8.0)	認知度を向上させることにより、各種県産ブランド畜産物の生産額の増加を目指す。			
	ふくいポーク生産額（億円）	(目標) 実績			0	0	(0.2)	(1)	(1)				
	福地鶏生産額（億円）	(目標) 実績			0.39	集計中	(0.39)	(0.41)	(0.42)				
活動指標	PR、フェア等件数	(目標) 実績					(2)	(2)	(2)	新幹線開業の5年度および開業直後の6年度は主体イベントを福井駅前 で実施。他、他課主催イベントの参加。市町イベントでの参加。			
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

飼料用米等への転換実証事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]					
[解決すべき問題・課題] 配合飼料の高止まりに対応するため、飼料用米等の利用推進が必要。						[問題・課題を表す客観的データ] ・ 県内畜産農家の濃厚飼料の自給率 2.7% ・ 飼料用米等の給与量 1,150t (25戸/75戸)						
[事業目的] 飼料の自給率向上を目指すため、飼料用米や子実用トウモロコシの利用を後押しすることで、生産コスト低減や持続可能な畜産経営を実現する。												
[事業内容] ○濃厚飼料給与実証 ・モデル農家で飼料用米等の給与実証を行い、効果を普及することにより、県内畜産農家の飼料用米等の利用を後押しする。												
[受益者] 畜産農家						[想定される受益者数] 畜産農家 75戸						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	市町と連携して、飼料用米や子実用トウモロコシの利用を推進していく。					他県の状況						

飼料用米等への転換実証事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史				
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R5 年度	
事業実施方法	直営											経過年数			1 年
補助率	—														
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	1,404					1,404									
[予算額の推移等]												(単位：千円)			
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移							1,404								
2月現計予算額の推移															
決算額の推移															
前年度までの 主な増減理由															
[成果指標等の推移]															
区分			令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	濃厚飼料の自給率向上(%)						(3)	(5)	(6)	中間目標 R6年 最終目標 R8年 飼料用米等の利用農家が増えることで自給率向上					
		(目標) 実績	2.7	2.3	2.7	2.7 見込み									
活動指標	飼料用米の給与量(t)						(1,200)	(2,000)	(2,500)	飼料用米の給与農家25戸⇒55戸					
		(目標) 実績	1,194	989	1,150	1,150 見込み									
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価							
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

畜産経営基盤強化支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史
事業主体		畜産農家等			事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度 R元 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法		補助金									
補助率		1/3、2/3									
福井県長期ビジョンにおける位置付け		分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]			関連する県の計画等	[新ふくいの農業基本計画、福井県長期ビジョン]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]					
施設の老朽化による生産力低下、過重労働による後継者の不足、畜産農家の高齢化による廃業によって、農家戸数は平成15年の164戸からR3年度の73戸まで減少。						畜産農家戸数の減少：H15 164戸、H30 88戸、R3 73戸 高齢かつ後継者無しの畜産農家：29戸（平均年齢 69.3才）					
[事業目的]											
経営規模拡大のために行う畜舎の増改築や、後継者への円滑な経営継承のための省力機械を導入する等の意欲的な取組みを支援し、県内畜産農家の生産拡大を目指す。											
[事業内容]											
1. ふくいポーク生産のための施設整備を支援 ・補助率：国1/2、県1/6（計2/3） 2. 経営規模拡大や6次化に対する支援 ・R4事業費：16,875千円×4経営体 ・補助率：県1/3（補助上限 12,000千円） 3. 労働環境改善に繋がる省力機械導入等を支援 ・R4事業費：6,750千円×4経営体 ・補助率：県1/3（補助上限 4,000千円）											
[受益者] 畜産農家等						[想定される受益者数] 県内畜産農家75戸					
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 若狭牛・高能力乳牛導入支援事業 (実績) TPPに対応するため、収益性の低い畜種から若狭牛や高能力乳牛へと畜種の転換を推進				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			
市町との連携状況		補助事業者は原則市町とし、事業の要望調査も市町と連携して行っている。				他県の状況		○強い畜産構造改革支援事業（岐阜県） 全畜種対象 補助率：新規就農支援型 1/3、担い手育成支援型 1/4 ・担い手確保、生産基盤強化を推進する取組みに対し、必要となる生産基盤整備に要する経費を補助。 ○乳用後継牛育成支援事業（富山県） 対象：酪農 補助率：1/3 ・後継雌子牛の哺育、育成に必要な施設等の整備に要する経費を補助。 ○能登牛ブランド力強化事業（石川県） 対象：能登牛 補助率：1/3 ・能登牛の増産を図るための簡易牛舎等の設置に対する補助			

畜産経営基盤強化支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体		畜産農家等			事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R元 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法		補助金										
補助率		1/3、2/3										
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和4年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		39,600	37,000	33,000	35,500							
2月現計予算額の推移		32,000	37,000	32,153	35,500							
決算額の推移		28,306	34,075	30,788								
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県内畜産生産額（億円）	(目標) (47)	(48)	(50)	(50)		(50)	(52)	5年度 5億円増 (H29 47億円 ⇒ R5 52億円)			
		実績 44	44	49	未発表							
活動指標	経営拡大のための整備 (事業活用)	(目標) (3)	(4)	(3)	(4)							
		実績 3	4	3	3							
	老朽化した施設機械の再整備 (事業活用)	(目標) (4)	(4)	(4)	(4)							
		実績 4	4	4	4							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
事業終了予定年度が到来し、目標を達成出来る見込みであるため終了。				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

若狭牛販売促進支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	福井県経済農業協同組合連合会				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度	
事業実施方法	補助									経過年数			2 年
補助率	1/3												
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]						
[解決すべき問題・課題] 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により若狭牛の枝肉価格はR2.4月に最下落 (前年同比27%減)し、その後も乱高下している。若狭牛を安定出荷するため は、年間を通しての枝肉相場の安定が重要である。そのためには、季節を問わな い若狭牛の消費が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] コロナ以前 (R1年度) と比較した若狭牛の枝肉価格 : R3 : 93.5% R2 : 96.3%							
[事業目的] 需要が低下する時期に消費者向けにPR、フェア等を実施することで枝肉価格の安定、飲食機会を促進し若狭牛振興を図る。													
[事業内容] 生産者団体が実施する若狭牛PRへの支援 (一般消費者へ向けたPRの実施) (1) インターネットを活用したPR (場所を選ばないPR) 特設サイトを開設し、広く若狭牛をPR (2) 食のイベントにおけるPR (食に関心のある消費者を対象としたPR) (3) 量販店内の食肉専門店におけるPR (販売と直結したPR) 等 ・R4事業費 2,817千円 ・補助率 県1/3 (補助上限: 939千円)													
[受益者] 畜産農家						[想定される受益者数] 肉牛農家 30戸							
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 オールブランド畜産物PR事業 (実績) 若狭牛提供店舗 150店舗 福地鶏提供店舗 71店舗				関連事業の有無・ 役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)						
市町との連携状況					他県の状況		・石川県 特色ある県産農林水産物の生産・販売体制強化とブランド化 能登牛 予算額3,800千円 協議会への補助 イベントへの参加、首都圏バイヤーの招致 ・富山県 無し						

若狭牛販売促進支援事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体	福井県経済農業協同組合連合会				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			<input type="checkbox"/> 補助金				
補助率	1/3								<input type="checkbox"/> その他				
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額													
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移				1,500	939								
2月現計予算額の推移				1,500	939								
決算額の推移				1,500									
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	若狭牛生産額（億円）	(目標)		(7.5)	(8.0)		(8.0)	(10)					
		実績		7.1	7.4 (見込み)								
活動指標	PR、フェア等件数	(目標)		(3)	(3)		(3)	(3)	需要低下の時期（梅雨、お盆明け、年明け）				
		実績		3	3								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
事業の見直しを行ったことによる終了。				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	939		
								<input checked="" type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

新幹線開業に向けた若狭牛出荷拡大促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	畜産農家				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R4 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	補助											
補助率	定額											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]					関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]				
[解決すべき問題・課題] 新幹線開業後の需要増に向けて、若狭牛の増頭が必要。						[問題・課題を表す客観的データ] ・ R2年度 若狭牛出荷頭数 559頭 ・ 北陸新幹線敦賀開業による福井県の観光入込増加数 785千人/年						
[事業目的] 令和6年春の新幹線開業に向けて、県産ブランド牛である若狭牛の増頭が求められている。そのため、畜産試験場で実施している「若狭牛の低コスト肥育技術の確立」で得られる研究成果の早期実用化・普及と増頭を支援し、出荷頭数の拡大を図る。												
[事業内容] (1) 農家実証試験 ○実証農家への試験飼料 (アミノ酸飼料) の提供 助成額 587千円 (2) 増頭支援 ○素牛導入に対する支援 事業主体: 農家 助成額: 1頭あたり192千円 (40頭)												
[受益者] 肉牛農家						[想定される受益者数] 肉牛農家 30戸						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 若狭牛・高能力乳牛導入支援事業 (実績) TPPに対応するため、収益性の低い畜種から若狭牛や高能力乳牛へと畜種の転換を推進				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況		補助事業者は原則市町とし、事業の要望調査も市町と連携して行う。				他県の状況		能登牛1000頭体制整備事業 (石川県) 能登牛を増頭するための支援 繁殖雌牛100千円/頭、肥育牛54千円/頭 肥育素牛導入支援事業 (鹿児島県) 導入経費の一部を助成することで、枝肉相場の低迷に加え素牛価格の高騰で厳しい経営を緩和する 15千円/頭 (50頭上限/戸)				

新幹線開業に向けた若狭牛出荷拡大促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史		
事業主体		畜産農家			事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業区分 <input type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	R4 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R5 年度
事業実施方法		補助									経過年数		
補助率		定額									1 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額													
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移					8,267								
2月現計予算額の推移					8,267								
決算額の推移													
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	若狭牛出荷頭数 (目標)			(600)	(600)	(640)	(652)	(748)	中間目標 R6年 最終目標 R8年 新幹線開業等で増加する観光客入込数 約80万人の1/4の20万食分の増頭 (=100頭)				
	実績	542	559	567	600 見込み								
活動指標	若狭子牛導入補助頭数 (目標)				(40)		(80)	(80)	補助頭数年間 40頭				
	実績				40								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価					
事業の見直しを行ったことによる終了。				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	8,267		
								<input checked="" type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

さかほまれを使った福井オリジナル酒の魅力発信事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画、第3次ふくいの食育・地産地消推進]					
[解決すべき問題・課題] 「さかほまれ」の地酒は商品販売開始から間もないため、全国的な知名度が低い。また、酒米生産者からは栽培方法の確立が、酒造場からは醸造技術の確立が求められている。						[問題・課題を表す客観的データ] 「さかほまれ」を使用した地酒はR2年に3万本、R3年に6万本となっており、まだ流通量が少ない（いずれも四合瓶換算。参考：R2年県内清酒醸造量 約250万本〔アルコール20度換算〕）。						
[事業目的] 福井生まれの酒米「さかほまれ」、酵母、水を使用した福井オリジナル酒の開発を行い、生産者と酒造場が連携し、酒米・酒の品質向上への取組みと県内から県外への段階的PRを行うことにより、福井オリジナル酒のブランド化を進める。												
[事業内容] ○販売・PR ・一般消費者向け試飲会の開催（県内） ・飲食店等での一般消費者向け試飲提供（都市圏） ○酒醸造・酒米生産の品質向上 ・醸造技術交流会の開催 ・生産者と蔵元による圃場見学会・意見交換会の開催												
[受益者] 県内酒米生産者、県内酒造場						[想定される受益者数] 600名、30社						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	・市町主催の消費者向けイベントでPRブース出展					他県の状況	○石川県 大吟醸用酒米の市場デビューによる地酒のブランド価値向上 ・新たな酒米の愛称・ロゴマークの公募 ・イベント実施による新たな酒米のPR ・酒米生産体制の強化					

さかほまれを使った福井オリジナル酒の魅力発信事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		3,111	3,016	2,638								
2月現計予算額の推移		2,583	3,016									
決算額の推移		2,468	2,431									
前年度までの主な増減理由	令和3年度：情報発信方法の変更（県内向けの雑誌掲載からイベントによる情報発信の強化）による減											
[成果指標等の推移]												
区分	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	さかほまれ使用量（t） (目標) 実績	(30) 32	(60) 68	(90) 108		(135)	(300)	さかほまれの醸造技術向上および商品需要増により、酒米需要量の増加を見込む。 目標：R2年度商品（R元BY）使用量30t→R11年度（R10BY） 300t				
活動指標	さかほまれ使用酒造場数（社） (目標) 実績	(17) 17	(19) 19	(20) 20		(21)	(25)					
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価				
酒米の収量が目標以上に確保され、余剰分も酒造組合の協力のもと酒造場へ配分されたことから成果指標、活動指標いずれも達成し、事業見直し年度が到来したことから、新規事業予算化による終了。				—				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了	2,638	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

農山漁村交流人口拡大施設整備事業

区分	休止	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史	
事業主体	市町等、JA越前たけふ				事務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事業 区 分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	補助											
補助率	1/10											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [2 成長を創る (産業力)] 政策 [5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ]				関連する県の計画等		[新ふくいの農業基本計画]					
[解決すべき問題・課題] 高速交通網の整備が進む中、誘客数を増やすための核となる施設が必要となる。						[問題・課題を表す客観的データ] ○南越前町の観光入込客数 R2 50万人 → R9 100万人 (うち観光農園入込客数1万人)						
[事業目的] 交流拠点施設 (道の駅等) を軸として、高速交通体系整備を機に増加が見込まれる観光客を農山漁村に呼び込み、回遊するための施設整備を支援することで、交流人口や園芸の拡大につなげる。												
[事業内容] ○道の駅に隣接した観光農園 (ハウス23aイチゴ摘み取り) の整備に対する支援 実施主体 JA越前たけふ 補助率 県1/10												
[受益者] 農業者等						[想定される受益者数] 約75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 夢あるふくいの園芸タウン育成事業 (役割分担) 大規模園芸ハウス (ブドウ等) の整備に対する支援						
市町との連携状況	南越前町の地域振興計画に位置付け、交流人口および園芸の拡大を目指す。				他県の状況							

農山漁村交流人口拡大施設整備事業

区分	休止	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	農林水産部	課名	中山間農業・畜産課	課長名	竹内 将史					
事業主体	市町等、JA越前たけふ				事務区分	■ 自治事務		事業区分	□ 実行予算		事業開始年度	R2 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R4 年度		
事業実施方法	補助					□ 法定受託事務			■ 補助金						□ その他	
補助率	1/10															
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等									
予算額																
[予算額の推移等]												(単位：千円)				
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	令和5年度予算額の増減理由									
当初予算額の推移			83,600	12,500	17,090		・南越前町のイチゴ観光農園については、美浜町の観光農園に比べ施設規模が小さいため、事業費は安価であるが、単年で支援するため増									
2月現計予算額の推移			10,000	12,500	14,389											
決算額の推移			0	0												
前年度までの 主な増減理由		令和2年度：国庫が県を経由する間接補助となるものとして要求 令和3年度：国庫分は市町へ直接交付されることになったため、予算額から国庫分を減額														
[成果指標等の推移]																
区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠							
成果指標	観光農園の入込客数（万人） (目標) 実績						(0.7)	(1)	令和4年度に観光農園を整備し、令和5年7月に開園予定							
活動指標	施設整備数 (目標) 実績		(1)	(1) 1	(1) 0	(1)	(1)	(1)								
[事業の評価]																
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和5年度の変更点				事業評価								
R4年度に支援した南越前町のイチゴ観光農園について、事業の進捗に遅れが生じたため繰越。(完了予定R5.9月) (補助額 R4：3,000千円、R4→R5繰越:11,389千円) R5年度は要望がないため、事業を休止。				—				□ 拡充		□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額				
								□ 継続		■ 休止	□ 完了					
								□ 整理統合		□ 廃止	□ その他					